



櫛紅葉 (はぜもみじ)

【学校教育目標】

ふるさと中原を担う

志をもった生徒の育成

～自律と協働の学校づくりを通して～

発行：令和5年3月1日（水） （文責） 校長 田中 克三

ラストスパート、できることはすべてやる！

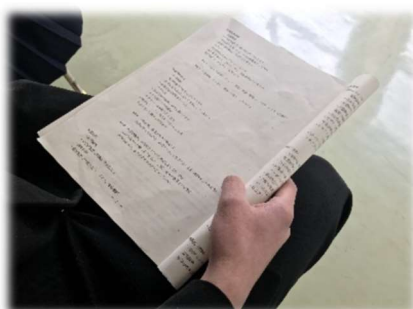
2月21日（火）、県立高校一般選抜試験の出願が締め切れようとしていた頃、本校では、その一般選抜試験に挑む3年生を対象に、**最終面接指導**が行われました。3年生を6グループ12班に分け、本校教員が各グループに2名ずつ付いて、本番さながらに面接練習を行いました。

面接室の中からは、その高校を選んだ志望動機や学校のどこに魅力を感じているか、自己PR等について、堂々と覇気のある声で自分の思いを言葉にしておりました。

「勝負」は面接室の中だけではありません。廊下には次の班のメンバーが、「ぴしっ」と音が聞こえるかのような姿勢で、イメージトレーニングをしていました。また、別の生徒は、念には念をとっているのか、不安なのか、最後まで面接質問例が書かれた紙を何度も見返し、緊張がこちらにも伝わってくるようでした。ふと足元に目を向けると、これ以上は入らないのでは…と思うほど学習用具が詰まったカバンに、「合格祈願」のお守りが大切に結んでありました。



【廊下で待つ間も面接の一部】



【質問例をぐっと握りしめる】



【分厚いカバンにお守り一つ】



廊下にはあえて面接室に入らず、入退室の仕方、姿勢や礼の角度、受け答えの様子など仕上がり具合を見守る担任の姿がありました。1年間、一人一人の進路に対する思いや悩みに寄り添い、時にアドバイスをし続けた集大成の時間がそこには流れていました。

階段そばで、3年生を見守りながら次第にふくらみ始めていたフリーズアアのつぼみも、いつの間にか開き、最後の追い込みにエールを送っているかのようでした。



ここに来るまでの準備の道のりは、平坦ではなく、長く険しいものだったかも知りません。しかし、**最後の一般選抜試験まであとわずか**です。——「もう一息でくたばっては、何にもならない」・・・ラストスパート、**できることはすべてやる**つもりで、頑張ってください。応援しています。



今まで見守ってくれて ありがとう



～グラウンド南側の桜伐採～

春を迎える節分の日である2月3日(金)、長年、生徒たちを見守ってくれていたグラウンド南側の桜並木をすべて伐採しました。



春といえば、桜。日本を象徴する花のひとつでもあります。綺麗な花を咲かせ、散りゆく姿もまた風流、さらには葉桜へと魅力が変化していく…。本校のホームページを開くと、満開の日の写真を見ることができますが、長きにわたって生徒たちの成長を見守り、私たちを楽しませてくれる存在でした。

しかし、花が終わった後、無数の花びらや蕊(しべ)が南側の住宅の敷地に落ちていくため、御迷惑をおかけしておりました。さらに、木にも寿命があるらしく、伐採した切り株を見ると、写真のとおりかなりの空洞となっており、倒木の恐れもありました。やはり、子どもたちの安全には代えられません。残念ですが、町教育委員会と話し合った結果、この度、伐採することになりました。

とはいえ、次の春の到来を待つかのように、切り落された枝には、たくさんのつぼみが芽吹いていました。



「もしかしたら、咲くかもしれない…」

—職員が急いでいくつかの枝を拾い、校長室の花瓶に生けておりました。無事に咲いてくれることを願いながら…。



自分の決意を言葉に込めて…

～2.17 2年生 立志式～

「みやき町教育の日」かつ本年度7回目の「学校開放デー」となった2月17日(金)、2年生は学年全体で恒例の「立志式」を行いました。

三省堂大辞林によると、「立志式」とは、元服にちなんで(数え年の)一五歳を祝う行事。参加者は、将来の決意や目標などを明らかにすることで、おとなになる自覚を深めるとあります。ここにある「元服」とは江戸時代の成人式とも言われ、数えて15歳頃の立春に行われたとされています。

調べてみると、「元」は首の意味で冠をかぶること、「服」は成人の服を着ることを表しているそうです。当時は髪型を変えたり、名前を改めたりすることもあったそうです。女子の元服は、「髪上げ」「まゆはらい」などと呼ばれていたそうですが、今は男女の差はありません。

当日、体調不良者が少し多く、全員とはなりませんでしたが、2年生一人一人が自分の決意を表した言葉を「書」にしたため、なぜその言葉にしたのか、心持ちを保護者の前で堂々と発表しました。



『挑戦』という言葉を選んだAさんは、『挑戦』という言葉の意味のように、僕は自分の限界に挑んだり、クラスの全員に働きかけたりするチャレンジ精神をもって行動したい。そして、『挑戦』することで自分の成長につながられるように頑張りたい。』と力強く決意を述べてくれました。

大人でもなく子どもでもない、揺れ動く14歳という時期こそ、これまでを振り返り、今を見つめ、未来を展望する、ということに意味があるのだと思います。

- ※多くの人々と出会い・ふれあい、柔軟な心を育む
- ※社会の中の自分を見つめ、他者を尊重するという社会性や自主・自律の志に気づく
- ※夢や目標に向け、必要なことを学び、それを身に付けるための計画を立てる
- ※すべし我慢と、してはいけない我慢を知り、自分を大切に生きること

何十年も前に14歳を体験した人間として、私が皆さんに大切にしてほしいと思うことはたくさんあります。創造力と感性を磨き、多くの人と出会ってほしい、その出会いをきっかけに、自分にも備わっている人間力、底力に気付いてほしい…と願っています。